

# 平成29年第2四半期 決算説明会

## 株式会社 大日光・エンジニアリング (証券コード:6635)

平成29年8月29日  
代表取締役社長  
山口 侑男

本件資料は、投資家の皆様の参考に資するため、株式会社大日光・エンジニアリング(以下、当社)の現状をご理解いただくことを目的として当社が作成いたしましたものです。

資料に記載された内容は、現時点において一般的に認識されている経済・社会等の情勢、及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性がございます。

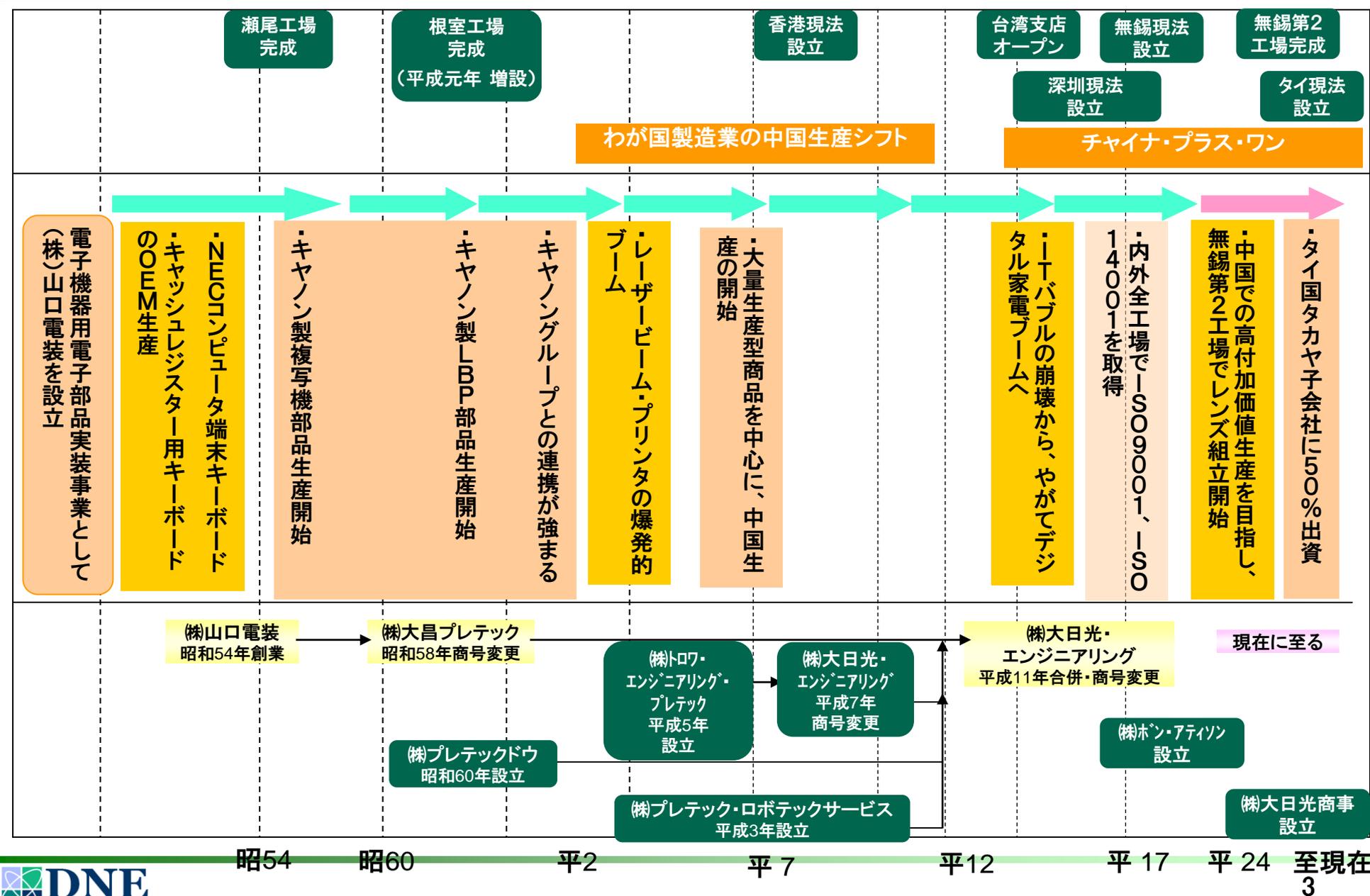
投資に際しての最終的なご判断は、ご自身のご判断でなされますようお願い申し上げます。

- ➔ **会社概要/沿革等** ..... P. 2 ~ 5
- ➔ **経営成績概要/分析** ..... P. 6 ~ 16
- ➔ **業績予想** ..... P. 17
- ➔ **中長期的な会社の経営戦略**  
..... P. 18 ~ 21

# 会社概要

- ◆ 会社名 株式会社 大日光・エンジニアリング
- ◆ 英訳名 Di-Nikko Engineering Co.,Ltd.
- ◆ 代表者 代表取締役社長 山口 侑男
- ◆ 本社所在地 栃木県日光市瀬尾33番地5
- ◆ 設立 昭和54年9月
- ◆ 公開市場 東京証券取引所JASDAQ(証券コード:6635)  
平成19年3月上場
- ◆ 資本金 8億5,630万円(平成28年12月末現在)
- ◆ 従業員数 単体 224人 連結 1,483人(平成28年12月末現在)
- ◆ 主要業務 電子部品実装を核とするエレクトロニクス製品の受託加工事業  
基板設計から、最適部品の調達、技術者の派遣、製造、物流までのサービスを一貫して提供
- ◆ 連結子会社 国内2社、海外4社(平成28年12月末現在)
- ◆ 持分法適用関連会社 海外1社 ( " )

# 沿革



# DNEグループ国内拠点 - Domestic Locations-

## 瀬尾工場 昭和54年生産開始



- 精密機器組立工場
- クリーンルーム有り (クラス10000 有人時)
- 工場面積2,600㎡
- 今市インターより10分(今市警察署斜め向かい)

## 杉の郷工場 平成22年生産開始



- 基板実装生産工場、その他
- SMT 5LINE
- 工場面積3,200㎡
- 大沢インターより15分 (杉の郷カントリー横)

## 轟工場 平成23年生産開始



- 精密光学機器組立工場
- クリーンルーム有り (クラス5000 有人時)
- 工場面積5,500㎡
- 今市インターより20分 (大日光工業団地内)

## 根室工場 昭和60年生産開始



- 本社機能、調達拠点、設計拠点、基板実装生産工場
- SMT 6LINE
- 工場面積6,000㎡
- 大沢インターより10分(県青少年スポーツセンター向かい)



# DNEグループ海外拠点 - Overseas Locations -

## TROIS ELECTRONICS(WUXI)CO.,LTD.



第一工場



第二工場

- 第一 ■ 江蘇省無錫新区開發区内
- 第二 ■ 上海虹橋空港より車で1.5時間

## NEW TROIS ELECTRONICS(SHENZHEN) LTD. 福永工場

### 彩煌（深圳）龍華第二工場



福永工場



彩煌工場

- 福永 ■ 広東省深圳市宝安区福永工業団地内
- 深圳宝安空港より車で15分
- 彩煌 ■ 広東省深圳市龍華区
- 香港-深圳国境地点より車で30分

## TROIS THAILAND CO., LTD.



- チョンブリ県
- シーラーチャー郡
- ピントン工業団地
- フェーズⅡ



## TROIS ENGINEERING PRETEC HK LTD.



- 香港事務所・倉庫
- 香港新界沙田
- KCR石門駅より徒歩5分

# 平成29年第2四半期連結経営成績概要

## 連結損益計算書

(単位:百万円)	平成28年 第2四半期	平成29年 第2四半期	対前年同期 増減	対前年同期 増減率
<b>売上高</b>	12,799	12,729	△ 70	-0.5%
<b>売上総利益</b> (売上総利益率)	1,158 9.1%	1,064 8.4%	△ 94	-8.1%
<b>営業利益</b> (営業利益率)	224 1.8%	79 0.6%	△ 145	-64.5%
<b>経常利益</b> (経常利益率)	187 1.5%	134 1.1%	△ 54	-28.6%
<b>親会社株主に帰属 する四半期純利益</b> (純利益率)	131 1.0%	114 0.9%	△ 17	-12.6%

# 連結経営成績に関する分析(第2四半期累計売上高)

## (1) 日本の売上高:4,461百万円(前年同期比1.4%増)

- 【要因】
- ・ 産業機器用・・・露光装置やディスプレイ製造装置へ需要拡大持続
  - ・ オフィス・ビジネス機器用・・・ペーパーレス化の進行などにより市場縮小
  - ・ 社会生活機器用・・・スマートフォン台頭や個人消費停滞による伸び悩み
  - ・ 遊技機向け・・・規制強化や遊戯人口減少に伴う需要停滞
  - ・ 業務請負・人材派遣子会社・・・社会生活機器用停滞から漸減

## (2) アジアの売上高:8,267百万円(前年同期比1.6%減)

- 【要因】
- ・ 香港・中国深圳子会社・・・最終メーカーの東南アジアへの生産シフトに伴う  
需要減少
  - ・ 中国無錫子会社・・・産業機器用・車載機器用生産は増加傾向
  - ・ タイ子会社・・・車載機器用を中心に量産体制整い、売上増加



**連結売上高:12,729百万円(前年同期比0.5%減)**

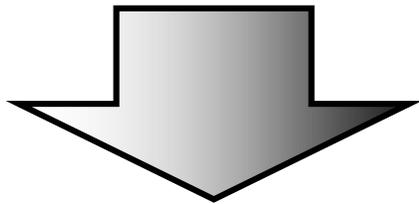
# 連結経営成績に関する分析(第2四半期累計損益)

## (1) 連結営業利益:79百万円(前年同期比64.5%減)

- ・高付加価値製品の売上伸び悩み
- ・中国における人件費増加等による製造経費・販管費の増加

## (2) 連結経常利益:134百万円(前年同期比28.6%減)

- ・為替差益の増加等により営業外収支は改善
- ・ただし、営業利益の落込み分をカバーしきれなかった



上記に加えて、

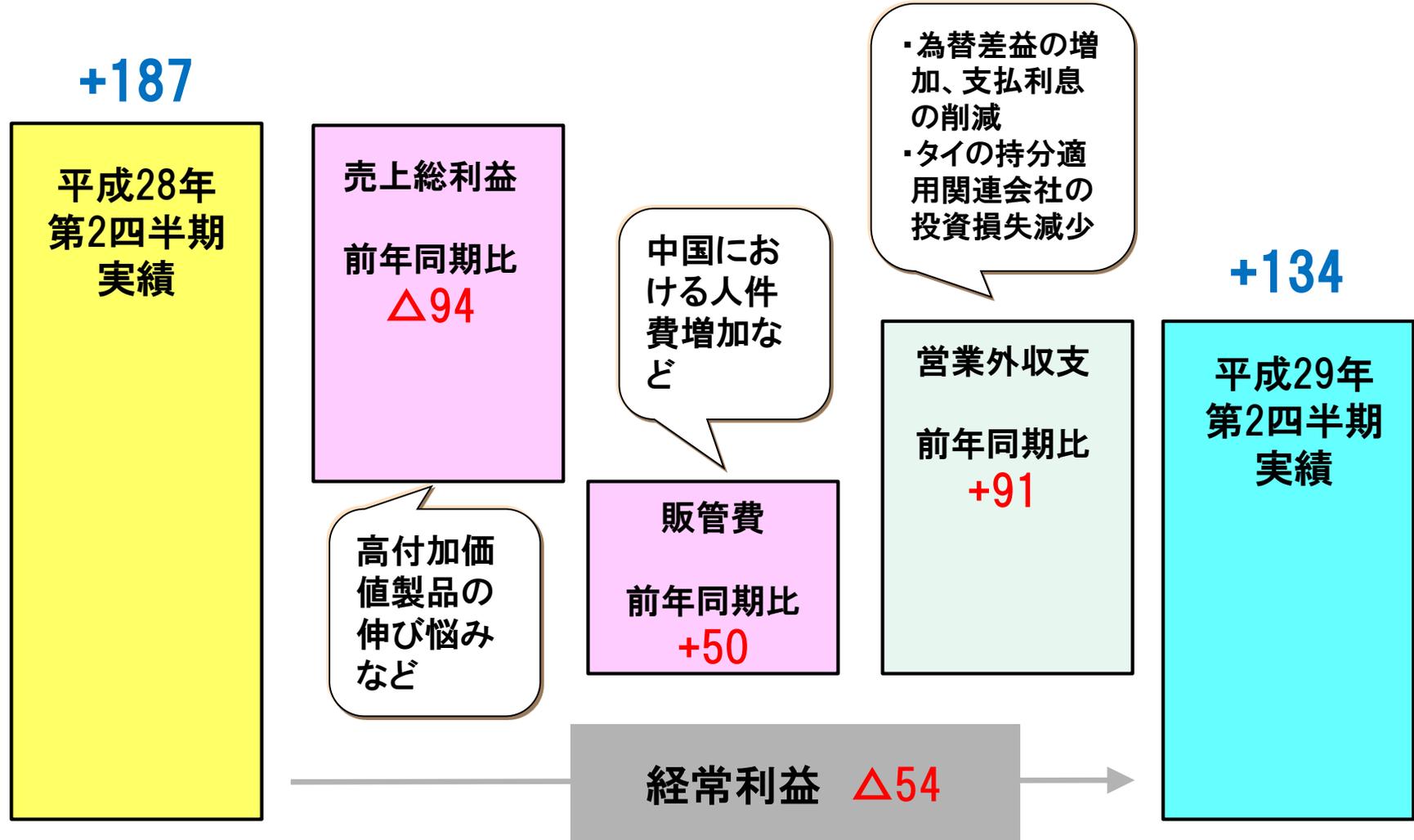
- ・固定資産売却による特別利益
- ・固定資産除売却による特別損失

親会社株主に帰属する

四半期純利益 :114百万円(前年同期比12.6%減)

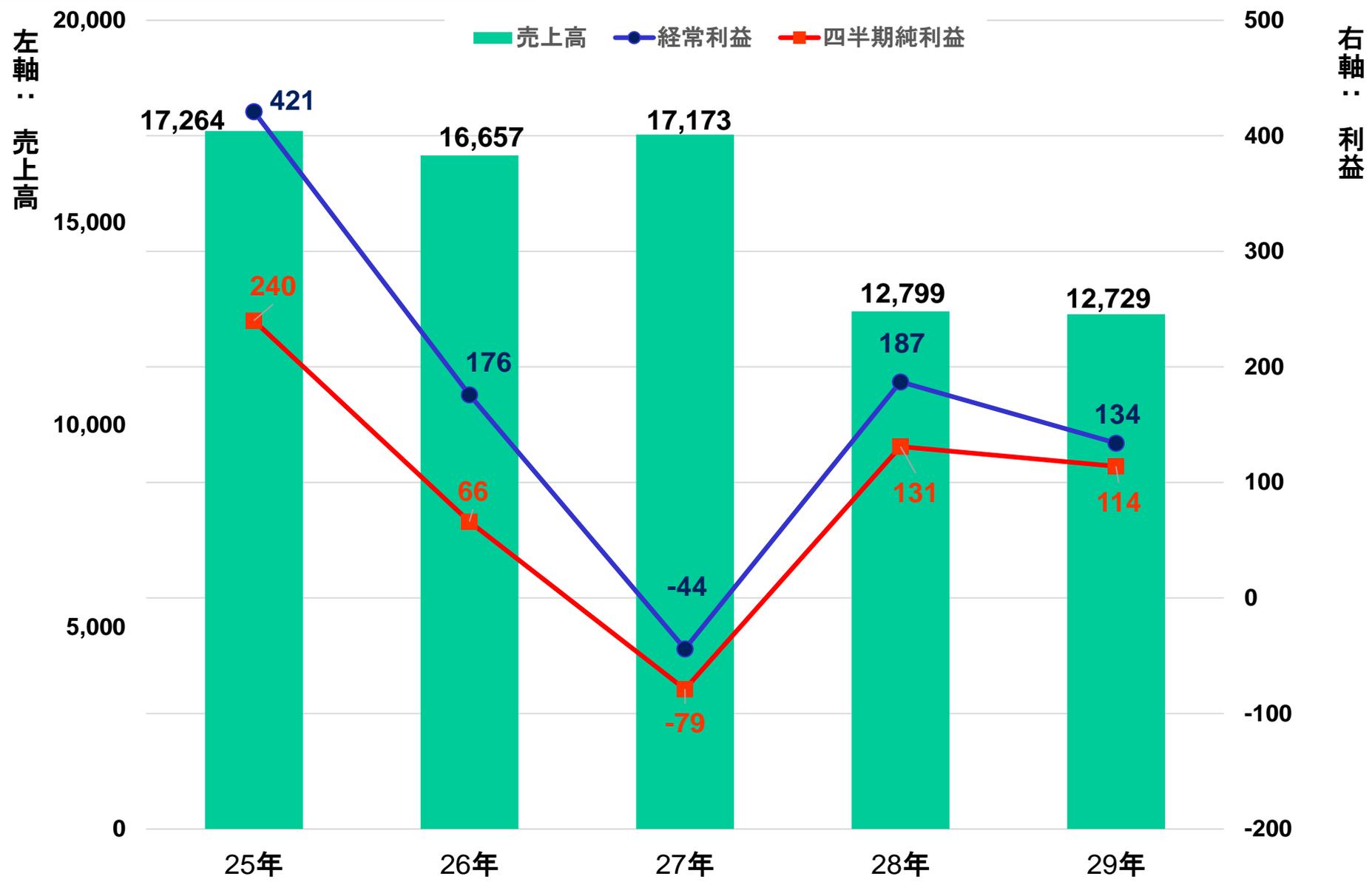
# 連結経常利益減少要因分析(第2四半期累計)

(単位:百万円)



# 連結業績推移(第2四半期累計)

(単位:百万円)



# 報告セグメントごとの第2四半期累計売上高、及び利益又は損失の金額推移

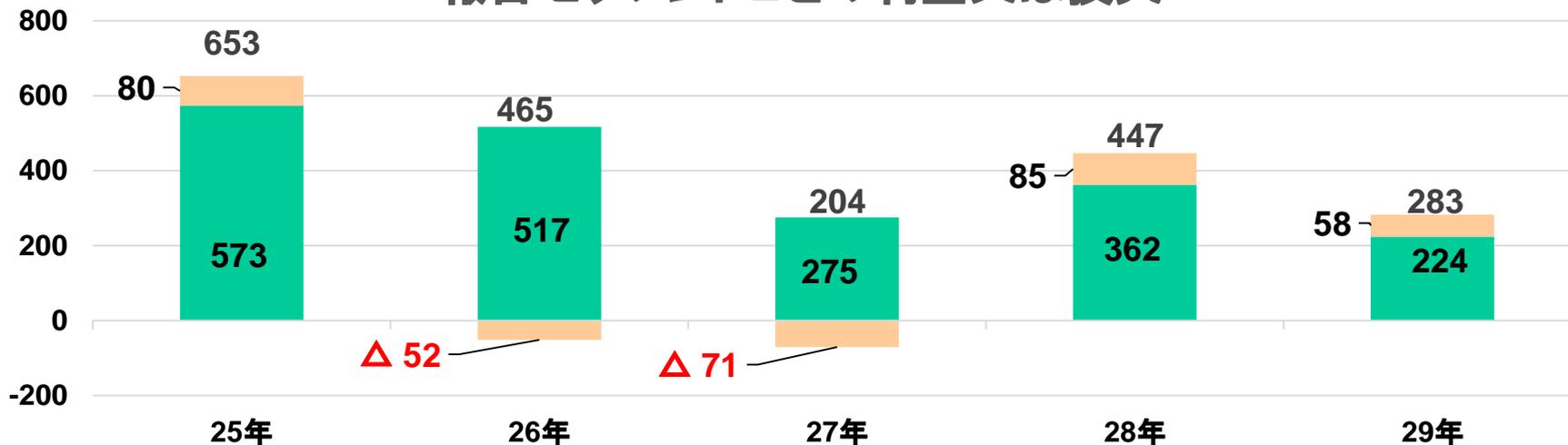
(単位:百万円)

## 報告セグメントごとの売上高

■ 日本 ■ アジア

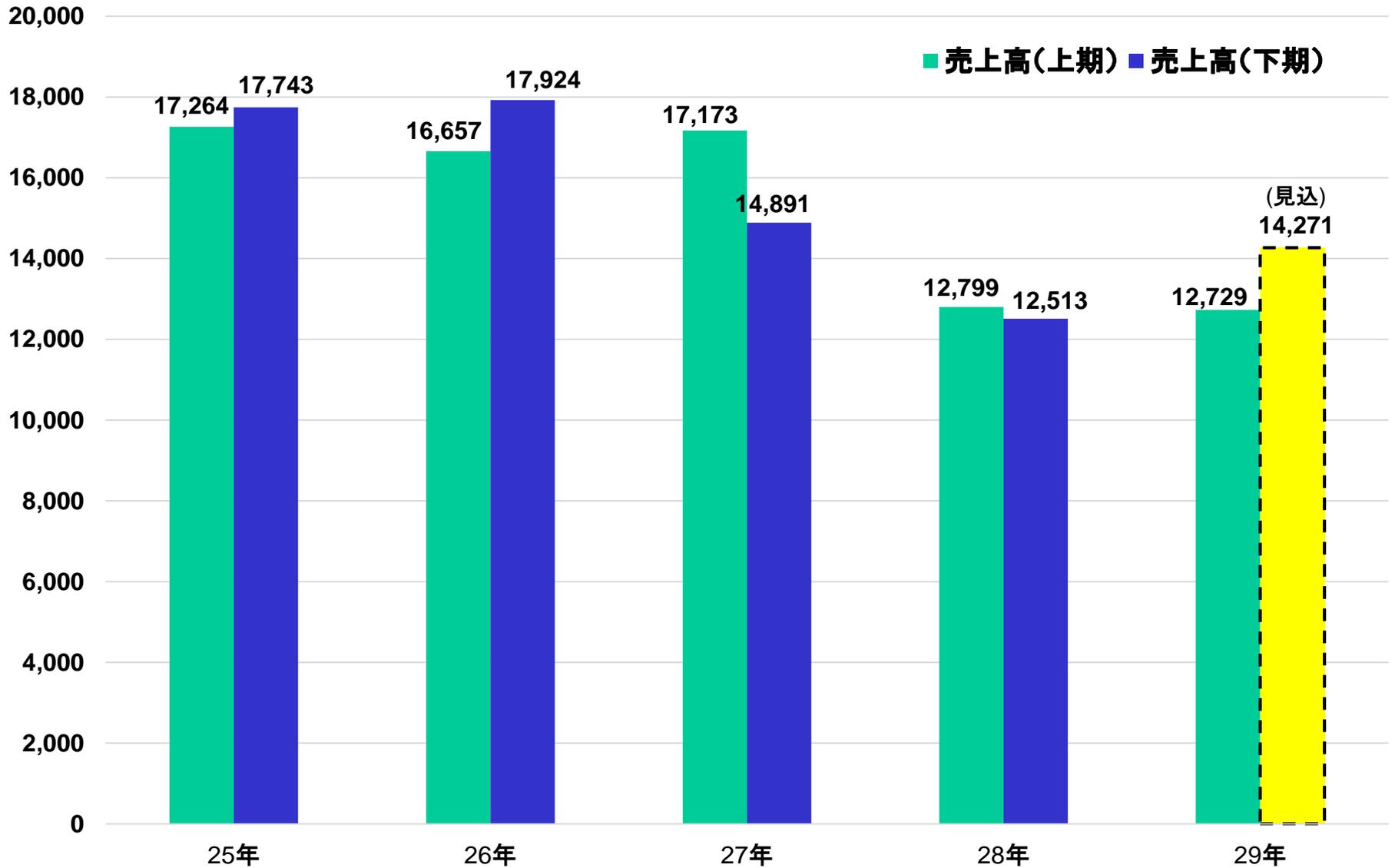


## 報告セグメントごとの利益又は損失



# 上期・下期別売上高動向

(単位:百万円)



# 連結貸借対照表(主な勘定の増減)

(単位:百万円)

		平成28年 12月31日	平成29年 6月30日	増減			平成28年 12月31日	平成29年 6月30日	増減
資産	現金及び預金	2,409	2,883	474	負債	支払手形及び 買掛金、でんさい	4,907	4,712	△ 195
	受取手形及び 売掛金、でんさい	6,050	5,745	△ 305		短期借入金	2,073	1,596	△ 477
	棚卸資産	4,216	4,170	△ 46		1年内返済予定長 期借入金	2,004	2,127	123
	その他	398	332	△ 66		その他	979	947	△ 32
	<b>流動資産</b>	<b>13,075</b>	<b>13,132</b>	<b>56</b>		<b>流動負債</b>	<b>9,964</b>	<b>9,383</b>	<b>△ 581</b>
	有形固定資産	3,393	3,378	△ 15		長期借入金	3,976	4,569	593
	無形固定資産	132	127	△ 5		その他	119	120	1
	投資その他	839	897	58		<b>固定負債</b>	<b>4,096</b>	<b>4,689</b>	<b>593</b>
	<b>固定資産</b>	<b>4,365</b>	<b>4,403</b>	<b>38</b>		<b>負債合計</b>	<b>14,061</b>	<b>14,073</b>	<b>12</b>
				純資産	資本金	1,419	1,419	0	
					資本剰余金				
					利益剰余金	1,230	1,318	88	
					為替換算調整勘 定	813	769	△ 44	
					その他	△ 83	△ 44	39	
				<b>純資産合計</b>	<b>3,379</b>	<b>3,462</b>	<b>83</b>		
<b>資産合計</b>	<b>17,440</b>	<b>17,536</b>	<b>95</b>	<b>負債/純資産合計</b>	<b>17,440</b>	<b>17,536</b>	<b>95</b>		

# 連結財政状態に関する分析(資産・負債及び純資産の状況)

## (総資産) 前連結会計年度末比95百万増の17,536百万円

- ・ **流動資産**:受取手形及び売掛金が減少の一方、現金及び預金、電子記録債権が増加  
⇒ 前連結会計年度末比56百万円増の13,132百万円
- ・ **固定資産**:有形固定資産が減少の一方、投資有価証券が増加  
⇒ 前連結会計年度末比38百万円増の4,403百万円

## (負債) 前連結会計年度末比12百万円増の14,073百万円

- ・ **流動負債**:支払手形及び買掛金、1年内返済予定の長期借入金が増加の一方、短期借入金が増加  
⇒ 前連結会計年度末比581百万円減の9,383百万円
- ・ **固定負債**:長期借入金が増加  
⇒ 前連結会計年度末比593百万円増の4,689百万円

## (純資産) 前連結会計年度末比83百万円増の3,462百万円

- ・ 利益剰余金及びその他有価証券評価差額金が増加

# 連結財政状態に関する分析(キャッシュ・フローの状況)

## 四半期連結キャッシュ・フローの状況

(単位:百万円)	A) 営業活動による キャッシュ・フロー	B) 投資活動による キャッシュ・フロー	C) 財政活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 四半期末残高
29年第2四半期 連結累計期間	567	△232	187	2,883
28年第2四半期 連結累計期間	954	△ 166	1,143	3,347

**(現金及び現金同等物) 前連結会計年度末比474百万円増の2,883百万円**

### A) 営業活動の結果獲得した資金:567百万円

- ・主に、税金等調整前四半期純利益126百万円の計上、売上債権の減少332百万円があったことによる。

### B) 投資活動の結果使用した資金:232百万円

- ・主に、有形固定資産の取得による支出177百万円があったことによる。

### C) 財務活動の結果獲得した資金:187百万円

- ・主に、長期借入金の純増713百万円があった一方、短期借入金の純減465百万円があったことによる。

# 平成29年第2四半期連結業績予想値と実績値との差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想(A)	12,900	60	20	15	5.74
今回修正(B)	12,729	79	134	114	44.05
増減額(B-A)	△170	19	114	99	-
増減率	△1.3%	33.1%	570.2%	666.2%	-
(ご参考)平成28年 第2四半期実績	12,799	224	187	131	50.34

## 差異の理由

- ・ 損益面では、国内外における地道なコストダウン活動の効果から、営業利益は79百万円(期初予想比33.1%増)となりました。また、主に中国子会社における人民元高に伴う為替差益の増加、消耗品等売却益、及び支払利息の削減に加え、タイの持分法適用関連会社の損失が減少したことなどから、経常利益は134百万円(期初予想比570.2%増)となりました。
- ・ 上記に加えて、固定資産売却による特別利益、固定資産除売却による特別損失、法人税等を加減した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は114百万円(期初予想比666.2%増)となりました。

# 平成29年12月期の連結業績予想(平成29年1月1日～12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		一株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期予想	27,000	6.7	330	5.7	270	19.5	200	27.4	76.57
(ご参考) 平成28年12月期 通期実績	25,312	△ 21.1	312	-	225	-	156	-	60.10

業績予想につきましては、平成29年2月14日に公表しました業績予想から変更ございません。

昨年策定した中期経営計画に沿った抜本的構造改革の断行により、安定的収益基盤の構築を図ります。

## 【4つの重点施策】

- ①顧客セグメント多層化と営業管理強化
- ②開発設計力・部材調達力強化
- ③製造経費・販管費削減の断行によるコスト削減
- ④組織、コーポレート・ガバナンスの再編と強化

## 3カ年中期事業計画の骨子

### 安定的な収益基盤の構築

#### 顧客セグメント 多層化と 営業管理能力強化

- ① バランスの取れた製品ポートフォリオと高付加価値製品受注
- ② 顧客生産変動を素早くキャッチする体制

#### 開発設計力・ 部材調達力 強化

- ① デザイン・ハウス、購買機能に優れた企業とのアライアンス
- ② 部材購買力強化によるコスト削減

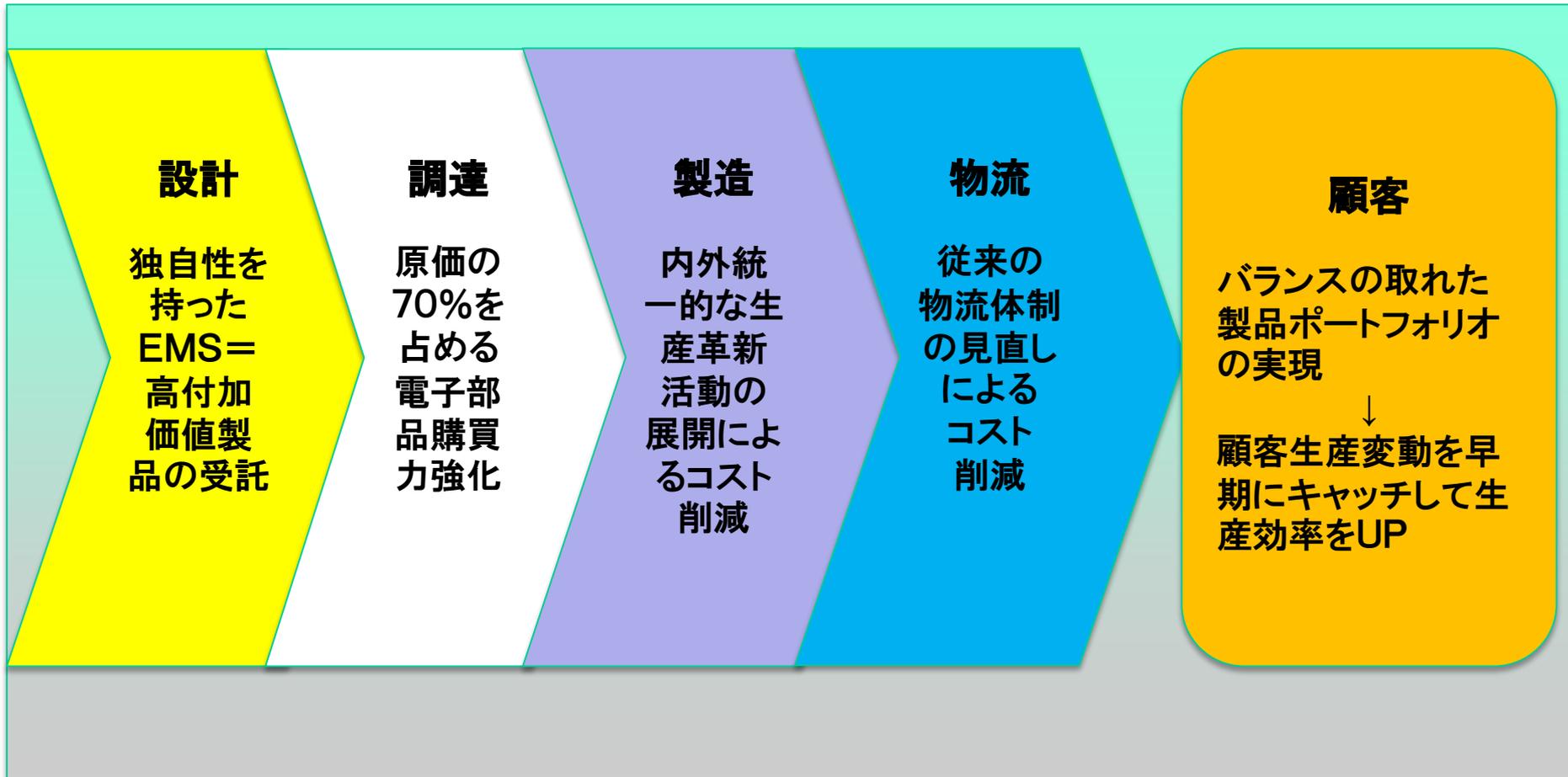
#### 製造経費・販管費 削減の断行による コスト削減

- ① 統一的生産革新活動によるコスト削減
- ② 緊急対応としての固定費削減

#### 組織、コーポレート ガバナンスの 再編・強化

- ① 絞った形での取締役会による的確な経営判断
- ② 拠点トップ権限と責任の明確化による、迅速な業務執行

## EMSという観点から見た課題整理



# 中長期的な会社の経営戦略(3カ年中期事業計画-3)

## 顧客多層化を図るための営業力強化

- 既存の電源開発機能を強化し、高付加価値製品を手掛けるEMSを目指す。
- 注力する3分野の営業力を強化し、内外情報一元化と機動力ある営業の展開を目指す。
  - 第1分野：  
遊技機、産業機器系、新規セクター開発
  - 第2分野：  
OA系、光機系、新規セクター開発
  - 第3分野：  
車載、医療、その他

## 開発製造型EMS/ビジネスモデル

- 組織的かつ戦略的営業体制の構築による高付加価値案件の受注獲得を目指す。
- 各製造拠点が属する産業クラスターの特性に応じた営業展開
  - 日本国内: 社会生活、産業機器、医療機器
  - 中国無錫: 車載、産業機器
  - 中国深圳: OBU、社会生活
  - タイ: 車載、社会生活
- 開発設計強化
  - 特にモニタリング・モジュール開発

鉛フリー基板実装



レーザービームプリンター



大型基板実装



MFP



交換レンズ



ハンディターミナル



電源開発



信号機



半導体製造装置



産業機器



車載関連

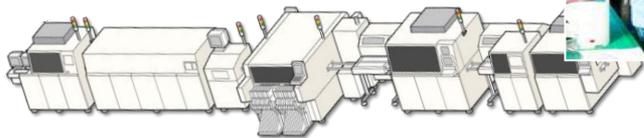


医療関連

# 中長期的な会社の経営戦略(3カ年中期事業計画-4)

## 製造力強化

- 品質:もう一段レベルアップした品質保証体制の確立
  - 全社的な品質改善活動としてものづくりの原理・原則に基づく継続的かつ発展的な工場品質向上に向けた改善活動を進めていく
  - 特定業種向けのISOマネジメントシステムの取得準備開始
- 環境:組織的に環境関連法規を遵守する体制の構築
  - グループとして迅速かつ効率的に環境対策に取り組む事ができる体制の構築
  - ISO14001のマネジメントシステムを活用した全社的な管理体制の構築



## 調達力強化

- 調達力強化による顧客満足度UP
  - 内外調達拠点の情報共有化を推進、顧客満足度の高いヴァリュー・エンジニアリング(VE)提案を行う
  - 顧客生産変動の早期キャッチ能力を高め、在庫コスト削減を図る
  - 外部ノウハウの早期取り込み検討

